令和元年度 年度末自己評価書

愛南町立長月小学校

 重点	=::: /==		=	評価規準 A:目標を達成 B:8割以上達成 C:6割以上達成 D:6割未満	== 1== * h= d= 1)m m. = - '-	肯定率	ア	ンケート平均		<u> </u>
重点 目標	評価項目	評価指標及び目標値(期待される姿)	評定	学校による考察(◇) 改善方策(◆)		√個別評値	4+3	4	3	2	1 ?
					教職員1	Α	100	57	43		
				◇地域の方から、田植えや野菜の苗の植え付けや手入れの仕方、収穫について直接御指導いただき、それを生かして田畑で作物を意欲的に育てることができた。更	児童1	A	96	74	22	4	
					保護者1	A を取り入わ	_ 96 た回数(1学	5/ 姐10回)	39	4	
		地域の教育力や伝統・文化を生かし ながら、人的・物的環境を活用したふ	٨	できた。生け花教室や食育ダンス、栄養教諭による給食指導、苔玉づくり等、様々な活動にも地域の方の御指導をいただき、充実した学びができたことが、高評価につ			差し、すいかの		ミニトマトのボ	え付け、5/3	1ジャガイモ
性		るさと学習を推進する。		ながったと考えられる。	の収穫、ト	ウモロコシ	vの種まき、芋	差し、6/3	と7/3食育ダ	ンス練習、6/	7生け花教
1寸 台				◆2学期からは、活動後の振り返りをもとに児童が保護者に伝え、それに対する感想を学校に返していただいたり、把握できた内容を学校だより等に掲載したりしながら、人との関わりの楽しさを実感できるような取組を行い、保護者や地域との更なる連携を図り、より充実したふるさと学習の推進につなげたい。			よる給食指導	章、6/21苔	玉作り、7/10	カレーパーテ	イ、7/16夏
あ				り、人との関わりの未しさを美感できるような取組を行い、体護有や地域との更なる連携を図り、より心美したふるさと手首の推進につなけたい。	野菜ピザイ	作り					
る	ふるさと学習									,	
校	かるらて十日	目標値:教職員・児童・保護者の9 0%以上が肯定		教職員1	A	100	71	29	A .		
ゔ					<u>児童1</u> 保護者1	Δ	100	68	32	4	
\				◇食育推進事業や地域合同避難訓練等、地域人材を積極的に取り入れ、学校、家庭、地域が一緒になって活動を充実したものにすることができた。そのことが、教職				<u>明</u> 13回)			
9			Α	員、児童、保護者の高評価につながったと考えられる。			き、10/4しし				
				◆今後は、食育をベースとして残しながら、歴史や芸術、文化面等他の分野からの地域人材を取り入れた授業や行事、集会を行い、更に充実したふるさと学習を推進し ていく							乍り、10/24 †け、11/11音
		地域人材を取り入れた回数		ていく。			コスモス宗り、 ノ、12/5食育タ	-	_	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	」17、11/11百
		学期に5回以上			本儿女		、12 / 0 以 円 /				
					教職員2	В	86	29	57	14	
		ムフ <i>与ナ</i> 井 <i>一</i> ツLコムノ************************************		〉主体的に学習に取り組むことができるように、子どもたちが考えたくなるようなめあてを設定したり、発問を工夫したりした。また、ペアやグループで話合う活動も取り入。		A	96	35	61	4	
		やる気を持って粘り強く学習に取り組 む児童が育っている。	Å	れた。このような取組を通して、少しずつ主体的に学習に取り組み、粘り強く学習に取り組むことができるようになってきている。しかし、教職員のアンケート結果から、さらに主体的に学習に取り組むことができるように授業を工夫する必要があると感じる。	休護有2	A	96	35	61	4	
		しつい手で 日 ノ CV TO。		◆来年度からの新学習指導要領完全実施に向けて、研修会や自己研修を通して研修を深め、さらに主体的・対話的な学習に向けての授業改善を行う。							
自	上体的•対話的										
	学習の実践			人o当如も フじももも終さけらに取り如わっしびったフォルの20日のテキナレムリ ジョルビュ	教職員2	A	100	40	60		
				◇2学期も、子どもたちが主体的に取り組むことができるための発問の工夫をしたり、ペアやグループ学習を取り入れた。また、聞き手を意識した発表の場も工夫して、 人前でも落ち着いて話すことができるようになってきているところから、教職員の評価が上がったと考えられる。保護者の評価が低下したのは、家庭学習において、粘り	児童2	A	91	43	48	9	
		 目標値:教職員・児童・保護者の9		大前でも落ち着いで話すことができるようになりてきているところがら、教職員の計画が上がりたと考えられる。保護者の計画が低下したのは、家庭子首において、福り 強く最後までやり抜くという点において、不十分と捉えられたのではないかと考えられる。	保護者2	C	/9	32	4/	16	5
		0%以上が肯定	В	最後は、「Mix Colo フ1050 で、「「カロ流だられていてはない。ころだられる。 R護者に見ていただくポイントを明確にした授業参観を行い、子ども達が主体的に学んでいることをしっかりと認識していただくようにする。家庭学習については、今							
				で以上に児童の実態と目指すべき目標にっついて保護者と共有し、最後までやり抜くことができるように支援していくとともに、計画帳や学級通信等で、できるようになっ							
				たことをこまめに保護者に連絡し、児童と保護者のモチベーションアップにつなげていく。							
		◇週に2回、元気タイムに学習の時間をとった。ドリルやプリント等を用いて、読み・書き・計算の力が身に付くよう、取り組んだ。学担以外の教員も指導に入り、 プリントの活用や業間を有効活用し、 た指導を行うことができた。そのため、少しずつ、、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ることができている。しかし、単元別テストの結果から、学力の個人差			児童3	A	96	48	48	4	
			10 25 0	Α	96	61	35	4			
確					A	91	26	65	9		
か		基礎的・基本的な知識・技能の確実		く、基礎・基本が定着していない児童がいることも分かる。 ◆単元テストで平均正答率が80パーセント満たない児童に対して、個別指導ができる体制にしたり、個に応じた宿題を出したりして、基礎・基本の定着(特に漢字の読	国語科の	単元テスト	の平均正答率	≚80%以_	上の個人が6	割	
学		な定着を図っている。			算数科の.	単元テスト	の平均正答率	⊠80%以_	上の個人がフ	割8分	
カー				み書きと文章の読解力)を図る。							
の声	基礎学力の定着										
正 着		目標値:児童・保護者の90%以上が			児童3	A	96	53	43	4	
ع ا		育定 国語科と算数科の単元テストの平均 正答率80%以上の個人が8割以上		◇元気タイムでの学習の時間には、漢字の読み書きや文章の読解力向上を目指してプリント学習を行った結果、少しずつ漢字の読み書きの力が定着しつつある。しかし、十分な時間確保ができず、文章の読解力等、定着が不十分の児童もいる。 ●2学期は、個別指導の時間確保が難しく、十分な補充学習を行うことができなかった。3学期は、一人一人の実態に応じた宿題を出し、基礎学力の定着を図る。元気タ	児童9	B	87	61	26 68	13	5
向					休護有4 国語科の	<u>」 A</u> 単元テスト	_ 95 の平均正答3			 割7分	<u> </u>
上			В		国語科の単元テストの平均正答率80%以上の個人が5割7分 気タ 算数科の単元テストの平均正答率80%以上の個人が6割5分						
		幅広いシャブルの本に親しむよう、読 B 9.7冊でありたくさん借りているとは言い難い。児童が読んでいる本をすべて把握できていない可能性もある。そのため、保護者の評価が下がったのではな 書活動の充実と工夫を図っている。		旧去。			4.0			1	
			<u>児童4</u> 保護者5	A	92	48	39	11	<u> </u>		
			◆ミニ図書館や学級文庫の本を読んでいる児童が多いため、図書室にある図書システムの活用が十分できていない。1学期間で児童一人当たりの本の貸出冊数は、		<u>」 </u>			<u></u>	14	4	
			В		総記31冊	、哲学23冊	· 歷史13冊、	社会4冊、		支術10冊	
					産業5冊、	芸術38冊	、文学66冊、統	绘本5冊、	合計225冊		
	売書活動の充実			10 ÷ -						T	
		目標値:児童・保護者の90%が肯定		◇夏休み中に、図書館担当教諭が中心となり、図書支援員や複式支援員、特別教育支援員と連携して、だれもが足を運びたくなるような環境づくりがなされた。時間が	児童4	A	91	48	43	9	11
				なんば 図書館に行き 詩書にいる」 お旧金の次も目ることが描うてきた 字期的た図書も採品が教神品による詩な問かみが毎日の胡詩書は 詳し書が一切たい伴	保護者5	 テムを活田	_		62	11	11
			В	一切れば、図書館に打さ、読書にいてしむ児童の姿を見ることが増えてさた。足期的な図書文援員や教職員による読み聞かせや毎日の朝読書は、話し声が一切ない状態でおこなわれることが多くなり、読書習慣が定着してきた。しかし、これらの様子を見る機会や、児童がどんな本を読んでいるのかを知る機会の不足が、保護者の評価が低い原因ではないかと考えらえる	総記54冊。	、哲学53冊	₹、歴史24冊、	社会15冊	、自然66冊、	技術13冊	
		図書システムを活用したジャンル別読書量		が低い原因ではないかと考えらえる、。 ◆児童が、幅広いジャンルの本に親しんでいることを知らせる機会を設け、保護者に児童の頑張りをしっかりと伝えていく。	産業18冊	、芸術86冊	}、文学214冊	、絵本19#	∄、合計562₩	}	
					旧卒-			001		<u> </u>	1
豊	-	家庭・地域との連携により「明るく丁寧なあいさつ・返事」ができる児童が 育っている。		√あいさつや返事ができている」と児童・保護者・地域のすべてが回答している。6年生を中心に気持ちのよいあいさつができているという評価を地域の方がおっしゃ	児童5 保護者6	A Λ	96	66	30	4	
か				地域1	A	100	75	25	7		
よし			Å	」、教職員は、挨拶ができる児童とできない児童の差が大きく、返事についてはまだまだ不十分な状態であるという認識をしている。		<u> </u>				<u> </u>	
心を			^へ ◆相手を見て、しっかりと挨拶ができるように、特に登下校時の機会を利用し、継続して教職員が範を示していく。その際、同じ人に2回目に会った場合は、会釈をする うに指導していく。また、返事については、教育活動の中で、根気強く、できるように指導していく。その中で、挨拶や返事をすることで、コミュニケーション力が向上したり、お互いが気持ちよく過ごすことができるようになることにつながっていくことを理解させていく。	•							
育しま											
て一重					100 etc -						T
7 3			◇集団登校時、通学途中では、最高学年が中心となって、気持ちのよいあいさつができている。このことが、地域の評価を高めている。しかしその日によって違ったり、 きる子としない子に分かれてきているという地域の意見や、A評価ではあるが、児童も保護者も1学期と比べて評価が下がってきていることから、挨拶が十分満足できる	 ◇集団登校時、通学途中では、最高学年が中心となって、気持ちのよいあいさつができている。このことが、地域の評価を高めている。しかしその日によって違ったり、で	児童5	A	96	53	43	4	
で る 数					H	95	32	ს	၁		
'る 教育		 日煙値·旧音•促罐老•地域の000%		さる于としない子に分かれてきているという地域の息見や、A評価ではあるか、児里も休護有も「子朔と比べて評価か下かつてきていることから、疾援が下分満定できる	抽 	Δ	100	27	12		
'る教育の		目標値:児童・保護者・地域の90% 以上が肯定	A	状態ではないと考えられる。返事についても、まだまだ不十分な状態であるという認識をしている。	地域1	A	100	82	18		
'る教育の推進		目標値:児童・保護者・地域の90% 以上が肯定	A	である子としない子に分かれてさているという地域の息見や、A評価ではあるが、児童も保護者も「学期と比べて評価が下かってさていることから、疾援が干分満足できる 状態ではないと考えられる。返事についても、まだまだ不十分な状態であるという認識をしている。 ◆よいあいさつとはどんなものか、よい返事とはどんなものか学ぶ機会を設け、理解させた上で、自分の目標を持って取り組めるようにする。また、スマイルあいさつ デーの取組を学校だよりで紹介し、地域の方への啓発を図る。また、1月は挨拶について、2月は返事について、全校で重点的に取り組んでいく。	地域1	A	100	82	18		

			教職員3	A	100	57	43		
	食育推進事業を中心とした活動や学	◇各学級の栽培活動や、命に関する体験活動を積極的に行うことができた。また、その体験活動と関連させた授業も行うことができた。そのため、命を大切にし、命に感	教職員3	A	100	57	43		
	習、道徳科において、生命尊重につ	。	児童6	A	100	83	17	10	
生命尊重	いて積極的な指導を図っている。	り等で紹介することで、更なる家庭や地域の啓発につなげていきたい。	保護者7	В	87	48	39	13	
			教職員3	A	100	100			
	目標値:教職員・児童・保護者の9	A あることをしっかりと感じることができた。これらの学びを、子どもたちが家で伝えたり、ケーブルテレビや新聞、広報、ホームページ、学校だより等で見ていただいたこと		A	96	79	17	4	
	0%以上が肯定	^ により、保護者の評価がアップしたと考えられる。 ◆今後も、持続可能な取組は教育課程の中に取り入れ、生命尊重の学びを継続していきたい。	保護者7	Α	100	42	58		
		▼う後も、行杭可能な取組は教育誌性の中に取り入れ、生中导生の子のを極続しているだい。	* / 啦 = 0	Α Ι	100	0.0	0.7	T	
	曲なれたはなままな。 ウルのした		教職員6	Α	100	70	37	1	
	豊かな体験活動を通し、自他のよさに気付き、認め合い支え合う集団づくりを行っている。	◇今年度より始めた児童会の取組「全校会議」で学校でのよりよい過ごし方について全校児童で話し合う機会を設けたことや、全校での俳句集会実施により、自分の意 ♪ 目を言った以下達の意見を認めたり、たがらよりよい集団づくりに向かることができた。縦割り班活動や全校遊びを6年生が中心となり、4人なで楽しく行うことができた。	児童 / 児童 1 2	A	100	70	30	7	
		N支え合う集団づく A 見を言ったり友達の意見を認めたりしながらよりよい集団づくりに向かうことができた。縦割り班活動や全校遊びを6年生が中心となり、みんなで楽しく行うことができた。 ◆活動中には、トラブルはある。どんなに小さなことでも早期発見、早期解決をして、よりよい集団を持続させたい。	保護者8	A	100	43	57		
				,,			<u> </u>		l
認め合い支え合			教職員6	Δ	100	29	71		
う集団づくり		◇2学期も引き続き、全校会議の場において、学校での充実した過ごし方について、意見交流をしながらよりよい集団づくりに向かおうと努力することができた。俳句集会	_	A	100	52	48		
豊			児童12	В	87	65	22	9	4
jγ	目標値:教職員・児童・保護者の9 0%以上が肯定		保護者8	В	95	37	58	5	
3									
♪		に支援していく。また引き続き、教職員が対話する機会を積極的に確保し、その子の心に寄り添いながら、仲間づくりにつなげていく。また、活動中のでトラブルを学びの							
		機会と捉え、どうしたいのか、どうすればよいのか、自分たちで解決していける力を養っていく。							
			教職員4	Δ	100	<u> </u>	57		
ර ඇ	児童やその保護者のニーズに応じた	◇通級指導教室や南えひめ病院寺の関係諸機関と連携して、児童の美態に即したニースを提供できたことや、一人一人を見つめる会や個別の指導計画寺で、教職員	児童8	A	100	78	22		
·汉 	合理的配慮の提供を行い、生活や学習上の困難の克服を目指した指導・ 支援に努めている。	。 全体で共通理解を図り、美践することができたことが高評価につなかったと考えられる。	保護者9	A	100	48	52		
╊ ┇╸┆ ┇╸┆		◆これからも、一人一人を大切にした学級経営を行うととともに、支援を必要とする児童について、関係諸機関との連携を密にするとともに、全教職員で共通理解を図り、共通実践していくことで、更に充実した指導・支援を継続していく。		L	L	I		L	i
(2) 特別支援教育 <i>(</i> 2) 	ノ ス」及「こ刃び」という。								
進 ^{1世 2年}			教職員4	Α	100	43	57		
	 目標値:教職員•児童•保護者の9		児童8	Α	96	79	17	4	
	0%が肯定	A ◆学級や学校において実践している一人一人を大切にした取組を通信等で保護者に伝える。また、今後とも、ユニバーサルデザインの学級経営を行い、必要な支援が ナムに行き民ノトンにするトトナに、関係機関トの連携や会教職員での共通理解、共通実践なし、更に充実した共通。支援を繰続と関章の成長を記録し、次年度につな	保護者9	Α	90	58	32	10	
		十分に行き届くようにするとともに、関係機関との連携や全教職員での共通理解、共通実践をし、更に充実した指導・支援を継続と児童の成長を記録し、次年度につな げていく。							
			教職員5	Δ	100	50	50		
	好ましい人間関係の構築と教育相談	◇直徳や授業や字級活動の允美や日々の指導により、里大ないしめは起こっていないと考えられる。しかし、保護者の中には、「仲間外れはめると思う」と合えられた方(児童10	A	100	87	13		
	の充実を図り、いじめ・不登校等の未然により、日期発見・日期対応に努め	C かあり、てれかいしめや个登校につなかる可能性も下が考えられる。	保護者10	В	91	91		9	
	然防止・早期発見・早期対応に努め ている。	・ ◆これまで以上に道徳や学級活動の授業の充実を行うと共に、休み時間の子どもの観察も全教職員体制で行う。そして、いじめや不登校につながりそうな事案には、早期対応をしていく。また、子ども一人一人と対話をする機会を積極的に確保していき、子どもの心に寄り添いながら、全教職員で情報共有をしながら、児童を育てていく。	地域2	D	56	56			4
		対別心をしていて。よた、」とも							
 児童理解の充実			教職員5	Α	100	43	57		
		◇一人一人を見つめる会での情報交換、毎月1回の児童とのお話タイム、なかよしアンケート等で子どもたちの実態把握を行い、教職員間で情報交換をしながら、いじめや不登校等の未然防止に努めた。	児童10	В	96	87	9	4	
	 目標値:教職員•児童•保護者•地域		保護者10 地域2	<u> </u>	95	90	5	5	
	日保旭・教職員・児童・保護省・地域 の100%が肯定	B ◆引き続き道徳や学級活動の授業の充実を図っていく中で、相手の気持ちを想像する力を育て、友達がいやだということはしないという心情を高め、実践力につなげて		A	100	39			
		いく。もしトラブルが起こった時には、しっかり話を聞き、きめ細やかな対応をしていく。友達との望ましい関わり方についても様々な場面で考えさせ、全ての児童が楽しく 学校に通えるように全教職員で情報共有をしながら、児童を育てていくとともに、児童の成長を記録し、次年度へつなげていく。	前期学校評	価において、	地域の方 σ	り分からなし	ハという回		
								日ようちょも	左曲十水は
			きていないと	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、
			きていないと 分からないを	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、
		◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。ま	きていないと 分からないを 教職員7	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、
	学校。家庭・地域が連進し、望ましい	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知る	きていないと 分からないを 教職員7 児童11	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、 4 1
	学校・家庭・地域が連携し、望ましい 食生活の確立に努めている。	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。	きていないと 分からないを 教職員7 児童11 保護者11	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
	学校・家庭・地域が連携し、望ましい 食生活の確立に努めている。	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知る	きていないと 分からないを 教職員7 児童11	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
合芸の批准		◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝	きていないと 分からないを 教職員7 児童11 保護者11	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
食育の推進		◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。	きていないと 分からないを 教職員7 児童11 保護者11 地域3	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
食育の推進	食生活の確立に努めている。	● 学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合う	きていないを 教職員7 児童11 保護者11 地域3 教職員7 児童11	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
食育の推進	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。	きからないを 教 現 重 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	捉えることに	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
食育の推進	食生活の確立に努めている。	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に	きからないを 教 現 重 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	捉えることに	はおかしいの	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
食育の推進	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。	きからないを 教 現 重 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	捉えることに	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 1
食育の推進	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域	B → ◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆ 2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。	き分 教 現 道 者 1 1 1 2 3 3 4 3 4 3 7 4 4 5 7 8 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	捉えることに	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100	ではないが	かという意		、年度末では、 4 4 4
食育の推進	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。	き分 教児 保地 教児 選 教	捉えることに	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95	ではないが ・きではない 38 70 39 74 29 75 16 82	かという意		、年度末では、 4 4 1
食育の推進	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マ	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体カテストのパーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。	き分 教児保地 教児保地 現代	捉えることに B A B B A A A A A	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100	ではないが ・きではない 38 70 39 74 29 75 16 82	かという意		、年度末では、 4 4 4
食育の推進	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることでいただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体カテストのバーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行っていく。合わせて運動会練習、朝マラソン、放課後の隆上練習等で更なる体力づくりを行い、運動会や	き分 教児保地 教児保地 児保地自 ないな 7 111 3 7 111 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	捉えることで BAAB BAAA AAA 賞(前年度と	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100	ではないが ・きではない 38 70 39 74 29 75 16 82	かという意		、年度末では、 4 4 4
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつかる。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体力テストのパーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。 ◇学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行っていく。合わせて運動会練習、朝マラソン、放課後の陸上練習等で更なる体力づくりを行い、運動会や隆上大会、マラソン大会での自己記録更新につなげていく。体育的行事の後には、保護者や地域の方へアンケートや感想文をお願いし、それを次回の取組に生かすよ	き分 教児保地 でか 職童護域 職童護域 職童護域 童護域 1312 最111 1312 最111 1312 最111 1312 最111 日本 1312 最111 日本 1312 日本 1	捉えることに B A A B B A A A A A A A A A A A A A A A	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100	ではないが ・きではない 38 70 39 74 29 75 16 82	かという意		、年度末では、 4 4 4
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることでいただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体カテストのバーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行っていく。合わせて運動会練習、朝マラソン、放課後の隆上練習等で更なる体力づくりを行い、運動会や	き分 教児保地 教児保地 児保地自 ないな 7 111 3 7 111 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	捉えることに B A A B B A A A A A A A A A A A A A A A	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100	ではないが ・きではない 38 70 39 74 29 75 16 82	かという意		、年度末では、 4 4 4
建東政権	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで「いただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつかる。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体力テストのパーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。 ◇学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行っていく。合わせて運動会練習、朝マラソン、放課後の陸上練習等で更なる体力づくりを行い、運動会や隆上大会、マラソン大会での自己記録更新につなげていく。体育的行事の後には、保護者や地域の方へアンケートや感想文をお願いし、それを次回の取組に生かすよ	き分 教児保地 歌童護域 歌童護域 歌童護域 童護域 でいら 員111 111 111 111 111 111 111 111	捉えることに B A A B B A A A A A A A A A A A A A A A	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100	ではないが ・きではない 38 70 39 74 29 75 16 82	かという意		、年度末では、 4 4 4
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。	◇学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることでしただきます」「ごちそうさま」の合掌の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、タ生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめ町スタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体カテストのパーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行い、運動会や陸上大会、マラソン大会での自己記録更新につなげていく。体育的行事の後には、保護者や地域の方へアンケートや感想文をお願いし、それを次回の取組に生かすようにしていく。暑い日がしばらく続き、熱中症には気を付けたいが、根気強く練習に取り組む態度も育てたい。	き分 教児保地 でか 職童護域 職童護域 乗1111 第111	捉えることに B A A B B A A A A A A A A A A A A A A A	まおかしいの で評価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100	ではないが ・きではない 38 70 39 74 29 75 16 82	かという意		、年度末では、 4 4 4 5
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。	日	き分 教児保地 教児保地 児保地自 児保地にいい 職童護域 職童護域 童護域己昨今 童護域なな 7 1 1 1 1 1 3 1 2 録 1 3 1 2 録 1 3 1 2 録 1 4 1 2 1 3 1 3	捉えることに B A A B B A A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの (字価するへ 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 この比較)	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81	かという意 かかと考え 50 22 57 13 57 18 17 57 13 57 13		、年度末では、 4 4 4 5
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%	日	き分 教児保地 教児保地 児保地自 児保地ITCか 職童護域 職童護域 童護域己昨今 童護域スなな 7 1 1 1 3 1 2 録1 4 1 2 1 2 1 3 1 2 1 3 1 2 1 3 1 2 1 3 1 4 2 1 2 1 4 4 1 4 1	捉ラ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 81 0び(1学期で	かという意 いかと考え 50 22 57 13 57 18 17 57 13 57 13 53 18 との比較)	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 4 5
建 主	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定	B	き分 教児保地 教児保地 児保地自 児保地IT1でか 職童護域 職童護域 童護域己昨今 童護域ス学いら 員113	提プ B A A B B A A A A 所 B B A A A A 所 B B A A A A	はおかしいの 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 81 V(1学期で び(1学期で	かというまた。 50 22 57 13 57 18 17 57 13 13 18 上のに前いにはいる。	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 4 5
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%	B	き分 教児保地 教児保地 児保地自 児保地ITCか 職童護域 職童護域 童護域己昨今 童護域スなな 7 1 1 1 3 1 2 録1 4 1 2 1 2 1 3 1 2 1 3 1 2 1 3 1 2 1 3 1 4 2 1 2 1 4 4 1 4 1	提プ B A A B B A A A A 所 B B A A A A 所 B B A A A A	はおかしいの 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 81 V(1学期で び(1学期で	かというまた。 50 22 57 13 57 18 17 57 13 13 18 上のに前いにはいる。	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 4 5
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定	B	き分 教児保地教児保地児保地目児保地目てか 職童護域 いら 員1者3131131員1者3134131なな 7 11131131なな 7 11131131なな 7 11131131よる いい131131よる いい131131よる の <td>提プ B A A B B A A A A 所 B B A A A A 所 B B A A A A</td> <td>はおかしいの 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td> <td>ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 81 V(1学期で び(1学期で</td> <td>かというまた。 50 22 57 13 57 18 17 57 13 13 18 上のに前いにはいる。</td> <td>12 4 14 4 5 5</td> <td>、年度末では、 4 4 4 5</td>	提プ B A A B B A A A A 所 B B A A A A 所 B B A A A A	はおかしいの 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 81 V(1学期で び(1学期で	かというまた。 50 22 57 13 57 18 17 57 13 13 18 上のに前いにはいる。	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 4 5
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定	○学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・酸ごとなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていることを材に関わっている方々の存在色知ることでに北きます」に北きます」に立ちうままり合学の電景に気持ちが込められている。また、マナーやエチケット・酸ごとなどの周期的に集中して指導することでである。またまり、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。え、そのことに対する感息を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特度品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナーの上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝・調と、作ってくださる方へ感動の気持ちも更に高まった。 ※対し、存まに大きならな方の感力の気持ちも更に高まった。 ※対し、存まに大きならな方の感力の気持ちのでくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食を実施し、家庭の協力をいたださながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりできた。また「えひめ「スタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体カテストのバーフェクト自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児重都で種目の75%は記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行ったが、昨年度と比較して全児重都で種目の75%は記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行ったが、昨年度と比較して全児重都で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていただく機会がたくきんあったため、子どもたちが体力づくりに取り組んでいることを啓覚することができるように工夫したり、根気強く取り組むな作用を発見される。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていただく機会がたくきんあったため、子どもたちが体力づくりに取り組んでいることを密考することができるように工夫したり、根気強く取り組むさため、運動の楽しさを味わうことができるように工夫したり、根気強く取り組むできる感覚を伸ばしている。通知会は、日本のよりに対しまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまないますないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないる。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないますないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないますないまれている。2と呼ばないる。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないまれている。2と呼ばないる。2と	き分 教児保地 教児保地 児保地自 児保地IT1でか 職童護域 職童護域 童護域己昨今 童護域ス学いら 員113	提プ B A A B B A A A A 所 B B A A A A 所 B B A A A A	はおかしいの 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 81 V(1学期で び(1学期で	かというまた。 50 22 57 13 57 18 17 57 13 13 18 上のに前いにはいる。	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 5
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較)	◆学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることでいただきす。」「こちそうきま」の合業の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する影響を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認と合うことで、食事に対するすナー向上へつながりつわる。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食金を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくさかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体カラストのバーフェクト自己新記録宣信につなげていく。カーセて運動会練習、朝マラソン、放課後の陸上大線で重めては記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行っていく。合わせて運動会練習、朝マラソン、放課後の陸上未練で更なる体力づりを行い、連動会や陸上大会、マラソン大会でのは可なけていく、体育的行事の後には、保護者が地の方やアンケートや感想文をお願いし、それを次回の取組に生かすようにしていく。暑い日がしばらく続き、熱中症には気を付けたいが、根気強く練習に取り組む態度も育てたい。 ◇2学期も継続して、教科体育をはじめ、運動会練習、朝マラソンやなわとび、放開後の陸上練習等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていただく機会がたくそみあったため、子ともたちが体力づくりに取り組んでいることを啓発することもできた。 ◆音校からの運動を練習、朝マラソンやなわとび、放開後の陸上練習等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていたが、大きながな力できるように工夫したり、根気強く解り組むことができる態度を育てたりできるように対していたが、それを次回の報告を持定していたり、それを表明を見ていた。とを除わったり、数はないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	き分 教児保地教児保地児保地自児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ別と地下の別と地下の <t< td=""><td>提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A</td><td>はおかしいの 7 88 92 96 87 86 92 95 100 100 94 20 30 95 94 80 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95</td><td>ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 V(学年115 66 31</td><td>かというまた。 50 22 57 13 57 18 17 57 13 13 18 上のに前いにはいる。</td><td>12 4 14 4 5 5</td><td>、年度末では、 4 4 4 5</td></t<>	提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 7 88 92 96 87 86 92 95 100 100 94 20 30 95 94 80 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 V(学年115 66 31	かというまた。 50 22 57 13 57 18 17 57 13 13 18 上のに前いにはいる。	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 4 5
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参りにより、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身	○学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやコデケット・噛むことなどの開始に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることでにいただきます」にあたうさま」の合事の言葉中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで開いただきます」に「ちそうさま」の合事の言葉中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることで増加していただり、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方法につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。。 ◆動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちもまった。多食も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食を変変に、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくきっかけづくりいできた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンブ」に挑戦し、条線した。新体カテストのパーフェクトも己がいら、マナーアップにつなげていく。中でより上を表している。本たらなたから、マナーアップにつなけていく。体育的行事の後には、保護者が上の音に記録を伸ばしている。と学期も継続して、教科体育をはじめ、運動会経習、朝マラソン、放課後の陸上練習等で体力づくりを行った。運動会を伸ばしている。と学期も継続して、教科体育をはじめ、運動会経習、朝マラソンやなわとび、放課後の陸上練習等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていただく機会がたくさんあったため、子どもたちが体力づくりに取り組んでいることを発発することもできるように工夫したり、根気強く取り組むことができる態度を育てたりできるよう心掛けて指導をしていきたい。	き分 教児保地教児保地児保地自児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ別名別名日本の <t< td=""><td>提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A</td><td>はおかしいの (で評価する) 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 00 20 30 95 94 ないでいい 96 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97</td><td>ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)</td><td>かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43</td><td>12 4 14 4 5 5</td><td>、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td></t<>	提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの (で評価する) 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 00 20 30 95 94 ないでいい 96 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)	かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
建	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参加により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較)	◆学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噛むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることでいただきす。」「こちそうきま」の合業の言葉に気持ちが込められている。 ◆2学期に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する影響を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 ◇動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認と合うことで、食事に対するすナー向上へつながりつわる。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も引き続き、命をいただくことと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食金を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつなげていくさかけづくりにする。 ◇児童の体力や熱中症等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。新体カラストのバーフェクト自己新記録宣信につなげていく。カーセて運動会練習、朝マラソン、放課後の陸上大線で重めては記録を伸ばしている。 ◆2学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力づくりを行っていく。合わせて運動会練習、朝マラソン、放課後の陸上未練で更なる体力づりを行い、連動会や陸上大会、マラソン大会でのは可なけていく、体育的行事の後には、保護者が地の方やアンケートや感想文をお願いし、それを次回の取組に生かすようにしていく。暑い日がしばらく続き、熱中症には気を付けたいが、根気強く練習に取り組む態度も育てたい。 ◇2学期も継続して、教科体育をはじめ、運動会練習、朝マラソンやなわとび、放開後の陸上練習等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていただく機会がたくそみあったため、子ともたちが体力づくりに取り組んでいることを啓発することもできた。 ◆音校からの運動を練習、朝マラソンやなわとび、放開後の陸上練習等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも練習の成果を見ていたが、大きながな力できるように工夫したり、根気強く解り組むことができる態度を育てたりできるように対していたが、それを次回の報告を持定していたり、それを表明を見ていた。とを除わったり、数はないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	き分 教児保地教児保地児保地自児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ別名別名日本の <t< td=""><td>提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A</td><td>はおかしいの 7 88 92 96 87 86 92 95 100 100 94 20 30 95 94 80 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95</td><td>ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)</td><td>かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43</td><td>12 4 14 4 5 5</td><td>、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td></t<>	提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 7 88 92 96 87 86 92 95 100 100 94 20 30 95 94 80 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95 95	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)	かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
建東教育の隹進体力で進めるの推	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	日	き分 教児保地教児保地児保地自児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ別名別名日本の <t< td=""><td>提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A</td><td>はおかしいの (で評価する) 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 00 20 30 95 94 ないでいい 96 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97</td><td>ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)</td><td>かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43</td><td>12 4 14 4 5 5</td><td>、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td></t<>	提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの (で評価する) 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 00 20 30 95 94 ないでいい 96 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)	かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
建東教育の住生体力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力で	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	日	き分 教児保地教児保地児保地自児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ児保地下つ別名別名日本の <t< td=""><td>提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A</td><td>はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 この比較) 96 95 94 な記録の中 3の字跳び 96 74 95%)、7月</td><td>ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)</td><td>かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43</td><td>12 4 14 4 5 5</td><td>、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td></t<>	提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 この比較) 96 95 94 な記録の中 3の字跳び 96 74 95%)、7月	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)	かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
建東教育の隹進体力で進めるの推	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	○学校来養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・職会ことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知る・◆学期に、把握しより、政容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実施把握を行い、改善方策につなげていく。また、学校での取組を用意から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなげていく。 動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につながっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食へる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と共に、作ってくださる方へ感謝の気持ちも更に高まった。 ◆今後も自分を持ちまままと、家庭の協力をいただきながら、マナーアップにつむげていくきっかけづくりしまする。 ◇児童の体力や熱中佐等を考慮しながら、教科体育や朝マラソン、放課後の水泳練習等により、体力づくりができた。また「えひめITスタジアム」の「8の字ジャンプ」に挑戦し、登録した。解析のディンが、カス体体のイーフェット自己新記録賞は4人だったが、昨年度と比較して全児童が全種目の75%は記録を伸ばしている。 ◆②学期能継続して、教科体育の中でしっかりと休力プくりを行った。オースクリを行った。運動会や陸上大会、スラソン大会での自己記録更新につなげていく、合わせて運動会業と関いの方へアンケートや感想文をお願いし、それを次回の取組に生かすようにしている。場口がしばら続き、熱中症には気を付けたいが、複気強く練習に取り組む態度も育でたい。 ◇学格がのの運動検が多ないせいか、運動会練習、朝マラソンやなわとび、放課後の陸上検習等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも秘密の成果を見ていただく組会がたくさんあったため、子どもたちが体力づくりこを作わった。であるお願いし、それを次回の取組に生かすよりによるといできるものは、発音なからまれたできるように工夫したり、根気強なできていない。児童の評価は高いが、保護者は28%が身に付いてないと答案でいる。足様が見なが良い方はたいが、現場を普及く取り組むできるいの児童に自体を修びから、対しているのととを保持しているのととを保持していているがほともないの児童に関するのできるように対しているが優を持てたい。と答案でいることを発行することができるようによりな行きないの場合は、大きないの場合は、大きないの場合は、大きないの場合は、大きないのといるのでは、大きないのできないのできないのできないのできないのできないのできないのできないので	き分 教児保地教児保地児保地目児保地IT12児保てか 職童護域童護域己昨今童護域ス学学童護域ス学学童護健朝起なな 7 1 17 1 13 1 2記141 3 1 2記142 7 3 12 3 1 2記143 1 22 3 1 23 1 23 1 23 1 23 1 23 1 23 2 3 23 1 23 2 3 23 2 3 23 1 2 3 23 2 3 2 3 23 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3 2 3	提プ B A A B B A A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 この比較) 96 95 94 な記録の中 3の字跳び 96 74 95%)、7月	ではないがきではない。 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 び(1学年 115 66 31 (100%)	かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
建東教育の住生体力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力で	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、なかのではより、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	◆学校栄養教諭から食べ物の栄養や、愛南町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・増むことなどの周期的に集中して指導することで定着を図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知る・ ・◆字押に、把握したい内容項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実践把握を行い、改善方案につなげていく、また、学校での取組を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなけていく。 ◆ 動物や植物の命への感謝の気持ちがいただきますという言葉につなかっていることを、食材の栄養や特産品について情報提供と合わせて継続して児童と確認し合うことで、食事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と対に、作ってださる方へ感謝の気持ちも理に高まった。 ◆今後も引き締ぎ、命をいただいたことを中っていたさった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを見現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食金を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアッフにつなげていくきっかけつくりにする。 ◆/空事は機能して、教科体育の中でレッかりと体力づくりを行っていく、合わせて運動を被害、割マラソン、放課後の産上経密等で重なる体力づくりを行い、通動会や陸上大会、マランメ会での自己記録を到ま得いていていく、(会わせて運動会と)に、現てのよりは保護者に対して、分と学の自己記録を関連新につかけていく、(会わせて運動会被害、割マラソン、放課後の産上経密等で重なる体力づくりを行い、通動会を歴上大会、マランメ会での自己記録を要新していなけていく、(会わせて運動会を)によって、ラい日がしばらく続き、熱中症には気を付けたいが、視気強く検書に取り組む態度も高てたい。 ◆ 含みからの運動経験が少ないむいか、運動を禁留、朝マラソンやなわとび、放課後の陸上経密等で体力づくりを行った。運動会や陸上大会、親子マラソン大会等で地域や保護者にも経営の成果を見ていたがと供きがくさみあたため、チどもたが大力がくりを開始さいこととを発えることもできるように工夫したり、根気強く取り組むことができる影度を育てたりできるようもより就存時刻が遅くなってしたまっ、全音段からの運動経験が少ないむしか、運動を苦手としていたりしんといことを嫌う児童もあるので、したが変を対している。起床が遅いなったり、発音を対していたいと身にならない身に付いているが、中学年おいての説信起すででいることを、機会を発えて児童に全体指導をしている。東の評価は高いが、保護者は28%が身に付いていない。全者では現場を確認していまれている。現代の場により、根は関すできないたり、保護者にはらなのできるように大切ないの感覚を持ちまいたが、中学年おいての説信起することを表すった。できるように大切ないたり、現場を含むないために表しましている。ととないたりなないないないないないないないないないないないないないないないないないな	き分 教児保地教児保地児保地目児保地IT12児保くてか 職童護域職童護域童護域己昨今童護域ス学学童護健朝起なな 7 1 17 1 1 13 1 1 記 141 3 1 2 記 14は 7 1 1 13 1 2 記 141 3 1 2 2 3 2 3 2 3 2 3 3 3 3 3 3 3 3 3	提プ B A A B B B A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 5の比較) 96 95 94 20 80 97 80 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	ではないだきではない 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 81 81 81 81 81 81 81 81 81 81 81 81	かという意 かという 50 22 57 13 57 18 17 57 13 53 18 上のに高 50 43	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
建東教育の住生体力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力で	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、なかのではより、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。	○学校来養教諭から食へ物の実養や、愛商町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する現味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・曝むことなどの周期的に集中して指達することで定差を図ってきた。また食材の命をいただいていること。食材に関わっている方々の存在を知ることでしいただきます」にもそうさま」の合学の書業に気持ちが込められている。 ◆学期に、把握したい物資項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく、また、学校での取積を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなけていく。 ◆ ●学期に、把握したい物資項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更定る実態把握を行い、改善方策につなげていく、また、学校での取積を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなけていく。 ◆ ●本事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と特定、作ってびけるも方へ感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食金を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアッフにつなげていくきかけづくりにする。 ◆ ○集命と対き検索を、命をいただだこと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく、また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアッフにつなげていくきかけづくりにする。 ◆ ○理事も継続して、教科体育の中でしっかりと体力でくりを行っていく、会力せて運動会練習、報マラソン、放課後の陸上練習等で更なる体力がくがそれい、返動会を協したの場上を関すている。 ◆ ○学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力がくりを行ったが、非有を使したい。場面の歌組に生かすまうにしていく、場口はいるにはないで、教科を育めのでしたが、様気強く練習に取り組む態度も育でたい。 ◆ 管政からの運動経験が少ないせいか、運動を著手としていなりが食く練習に取り組む態度も育でたい。 ◆ 管政からの運動経験が少ないせいか、運動を著手としていた。人を発力のできなようにエ夫したり、視気強く取り組むと答えている。起れることができるようにエ夫したり、視気強く取り組むと答えている。起れることができるように上れているが自たがより、教育を含まった。とれているが自たがより、教育を含まった。とれているのでながもとを味力できるようにより、保護者は20%が自たの理能では関いので表が自たしていたが、ないため、対しの情報を含されている。とはまないもの場合は、また、見をの情に対しないました。とれている場合は、また、見かないました。とないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな	き分教児保地児保地目児保地IT12児保てか職童護域童護域己昨今童護域ス学学童護健朝いら員1者31者4新年年1者4夕期期1者康食床なな7111312録14は13141314いい141141また141141 </td <td>提プ B A A B B B A A A A A A A A A A A A A</td> <td>はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 20 20 30 95 94 20 30 95 94 20 30 97 30 97 30 97 40 30 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97</td> <td>ではない 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 100%) 4~7月 8 66 31 (100%) 4~7月 8 65 26 (91%)</td> <td>かという意 50 22 57 13 57 18 17 79 18 17 57 13 57 13 50 18 どの回高学 30 43 3日(15%)</td> <td>12 4 14 4 5 5</td> <td>、年度末では、 4</td>	提プ B A A B B B A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 20 20 30 95 94 20 30 95 94 20 30 97 30 97 30 97 40 30 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	ではない 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 100%) 4~7月 8 66 31 (100%) 4~7月 8 65 26 (91%)	かという意 50 22 57 13 57 18 17 79 18 17 57 13 57 13 50 18 どの回高学 30 43 3日(15%)	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4
建東教育の住生体力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力で	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参別により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 目標値:児童・保護者の90%以上が肯定	○学校来業教諭から食へ物の栄養や、愛雨町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する興味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・噂むことなどの周期間に集中して指導することで定地で変もを図ってきた。また食材の命をいただいていること・食材に関わっている方々の存在を知ることでしいただきます」につちそうきま」の合学の言葉に気持ちが込められている。 ◆ (***) ・	き分教児保地児保地目児保地IT12児保てか職童護域童護域己昨今童護域ス学学童護健朝いら員1者31者4新年年1者4夕期期1者康食床なな7111312録14は13141314いい141141また141141 </td <td>提プ B A A B B B A A A A A A A A A A A A A</td> <td>はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 5の比較) 96 95 94 20 80 97 80 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97</td> <td>ではない 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 100%) 4~7月 8 66 31 (100%) 4~7月 8 65 26 (91%)</td> <td>かという意 50 22 57 13 57 18 17 79 18 17 57 13 57 13 50 18 どの回高学 30 43 3日(15%)</td> <td>12 4 14 4 5 5</td> <td>、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td>	提プ B A A B B B A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 5の比較) 96 95 94 20 80 97 80 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	ではない 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 100%) 4~7月 8 66 31 (100%) 4~7月 8 65 26 (91%)	かという意 50 22 57 13 57 18 17 79 18 17 57 13 57 13 50 18 どの回高学 30 43 3日(15%)	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
建東教育の住生体力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力で進めるとは、大力では、大力で進めるとは、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力では、大力で	食生活の確立に努めている。 目標値:教職員・保護者・児童・地域の90%以上が肯定 教科体育の充実や元気タイム、朝マラソン、えひめITスタジアムへの参別により、体力・運動能力の向上に努めている。 目標値:児童・保護者・地域の90%以上が肯定 自己新記録賞(前年度との比較) 早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 目標値:児童・保護者の90%以上が肯定	○学校来養教諭から食へ物の実養や、愛商町の特産品について情報提供を受け、給食指導時間に児童に伝えることにより、食事に対する現味関心が深まっている。また、マナーやエチケット・曝むことなどの周期的に集中して指達することで定差を図ってきた。また食材の命をいただいていること。食材に関わっている方々の存在を知ることでしいただきます」にもそうさま」の合学の書業に気持ちが込められている。 ◆学期に、把握したい物資項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更なる実態把握を行い、改善方策につなげていく、また、学校での取積を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなけていく。 ◆ ●学期に、把握したい物資項目を入れて、食生活アンケートを実施し、更定る実態把握を行い、改善方策につなげていく、また、学校での取積を児童から保護者に伝え、そのことに対する感想を出していただくことで、双方向の情報伝達を行う。そして得た情報を通信や参観日等で情報発信し、更に望ましい食生活の確立につなけていく。 ◆ ●本事に対するマナー向上へつながりつつある。給食センター見学で、実際に自分たちが食べる物を作っている場面を見せていただいたことで、食材に関する感謝と特定、作ってびけるも方へ感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく。また、3学期に親子給食試食金を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアッフにつなげていくきかけづくりにする。 ◆ ○集命と対き検索を、命をいただだこと作ってくださった方への感謝の気持ちを表すための食事のマナーを具現化できるように、機会を捉えて指導していく、また、3学期に親子給食試食会を実施し、家庭の協力をいただきながら、マナーアッフにつなげていくきかけづくりにする。 ◆ ○理事も継続して、教科体育の中でしっかりと体力でくりを行っていく、会力せて運動会練習、報マラソン、放課後の陸上練習等で更なる体力がくがそれい、返動会を協したの場上を関すている。 ◆ ○学期も継続して、教科体育の中でしっかりと体力がくりを行ったが、非有を使したい。場面の歌組に生かすまうにしていく、場口はいるにはないで、教科を育めのでしたが、様気強く練習に取り組む態度も育でたい。 ◆ 管政からの運動経験が少ないせいか、運動を著手としていなりが食く練習に取り組む態度も育でたい。 ◆ 管政からの運動経験が少ないせいか、運動を著手としていた。人を発力のできなようにエ夫したり、視気強く取り組むと答えている。起れることができるようにエ夫したり、視気強く取り組むと答えている。起れることができるように上れているが自たがより、教育を含まった。とれているが自たがより、教育を含まった。とれているのでながもとを味力できるようにより、保護者は20%が自たの理能では関いので表が自たしていたが、ないため、対しの情報を含されている。とはまないもの場合は、また、見をの情に対しないました。とれている場合は、また、見かないました。とないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまないまな	き分教児保地児保地目児保地IT12児保てか職童護域童護域己昨今童護域ス学学童護健朝いら員1者31者4新年年1者4夕期期1者康食床なな7111312録14は13141314いい141141また141141 </td <td>提プ B A A B B B A A A A A A A A A A A A A</td> <td>はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 20 20 30 95 94 20 30 95 94 20 30 97 30 97 30 97 40 30 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97</td> <td>ではない 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 100%) 4~7月 8 66 31 (100%) 4~7月 8 65 26 (91%)</td> <td>かという意 50 22 57 13 57 18 17 79 18 17 57 13 57 13 50 18 どの回高学 30 43 3日(15%)</td> <td>12 4 14 4 5 5</td> <td>、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td>	提プ B A A B B B A A A A A A A A A A A A A	はおかしいの 88 92 96 87 86 92 95 100 100 100 94 20 20 30 95 94 20 30 95 94 20 30 97 30 97 30 97 40 30 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97 97	ではない 38 70 39 74 29 75 16 82 83 43 81 100%) 4~7月 8 66 31 (100%) 4~7月 8 65 26 (91%)	かという意 50 22 57 13 57 18 17 79 18 17 57 13 57 13 50 18 どの回高学 30 43 3日(15%)	12 4 14 4 5 5	、年度末では、 4 4 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

		THIN THING 去写中人然后即上了中		教職員8	Α	100	43	57		
安全・安心な			◇未告知の避難訓練の実施や、避難訓練の様子を見て、避難の仕方や避難場所について専門的な立場から具体的なアドバイスをいただけたことが高評価につながっ	児童15	Α	100	91	9		
			_{&} たと考えられる。	保護者14	В	81	38	43	19	
			A ◆機会を捉えて、学校での訓練の様子を子どもから保護者へ伝え、それについての感想をいただくことで、学校の取組を知っていただく。また、2学期は、保育所や地域	地域5	Α	100	88	12		
	 古人 叶似 #/ 本		の方々と一緒に避難訓練を行い、自分の命は自分で守る意識の向上を図るとともに、教職員の危機管理意識を更に高める研修を実施していく。							
	安全・防災教育 の充実					I				I
		目標値:教職員・児童・保護者・地域の90%以上が肯定	◇学校での避難訓練の様子を子どもから保護者に伝え、それについて感想をいただくことで、学校の取組を知っていただけたことと、学校運営協議会で協議し、初めて	教職員8 児童15	Α	100	57	43		
			行った地域合同避難訓練が、保護者や地域の評価の向上につながったと考えられる。地域全体で、防災対策課や消防署、消防団等の関係機関と連携をとりながら実		Α	96	83	13	4	
			_^ 践できたことは、大変意義深いと思われる。	保護者14	В	89	26	63	11	
			A ◆今後も、様々な場面を想定した避難訓練繰り返し行い、児童に自分の命を自分で守るための実践力を身に付けさせたり、教職員の危機管理意識を高めたりする取締	1 地域5	A	100	94	6		
学			を行っていく。また、学校運営協議会が中心となって、地域全体の更なる防災意識の高揚を図るための訓練も実施していく。道徳や学級活動の時間に、それぞれの学生のなど、ためなど、アクロスは、アクロスは、アクロスのではでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのでは、アクロスのではでは、アクロスのではではではでは、アクロスのではではではではではではではではではではではではではではではではではではなりではではではないのではではではではではではではではではではではではではではではではではではでは	F						
校づくい			でインターネットの利用等についての指導の時間を設け、実施し、その内容について、学級通信や学級PTA等で保護者に伝える。							
		清掃や身の回りの整理整頓を主体 的に行い、自ら学びの環境を整える 態度が向上している。	◇少人数のため日替わりで清掃場所を交代し環境美化に努めたり、掃除機やモップ等で時短を図った清掃を取り組んでいる。しかしながら、教職員評価がCと低い。進	教職員9	С	71	42	29	29	
				児童16	В	87	65	22	9	4
1 9			B んで一生懸命取り組むことが不十分な様子が見られ、全校児童が黙働・快働できる意識作りが必要である。 ◆整理整頓は、学習の効率化・身だしなみにもつながる。全教職員が環境整備で心を整えるという意識をもって清掃指導を行うとともに、帰りの会には、机やいす、整理	児童17	Α	96	61	35		4
U) #			▼登壁登順は、子首の効率化・身にしなみにもつなかる。至教職員が環境登備で心を登えるという息調をもつて清掃指導を打つとともに、帰りの云には、机やいり、登 かご、ロッカーの整頓や黒板をきれいにし、学びの環境を整えてから教室を出るようにする。	Ē						
准	理接敕准士		がこ、ログガーの金銭で無似をさればいこと、子のの様境を並んでから教主を出るようにする。							
進	環境整備力	日標値: 教職員・児童の90%以上が 肯定		教職員9	В	86		86	14	
			◇学びの環境を整える児童の育成に努めようと教職員が意識し、指導・支援を行ったことで、児童の環境整備力が向上してきた。低学年でも、膝をついてしっかりとふき 情保ができる児童や、無駄なおしゃべりをせず、時間いっぱい掃除ができる児童が増えてきた。また、下校後の机の中や周辺などの整理整頓が習慣化してきつつある。 しかし、トイレのスリッパや靴、カバンの整頓については、まだ不十分な点が見受けられる。 ◆トイレのスリッパや靴、カバンの整頓も含め、教室のロッカーや机の中、玄関の下駄箱の整頓もきちんとできるよう、全校体制で取り組んでいく。	児童16	Α	96	53	43		4
				教職員9 児童16 児童17	В	87	52	35	9	4
							•	_		<u>.</u>
			▼1111000パナンバで和いのパンの主張の自め、教主のロフガーで作ので、公民の「成相の主張してつんててもある」、主政体制で扱う他がている。							
	拉米上上十十十二		へ当びの理控と較って旧辛の呑代に奴み Lこし牧職号が辛謹し お道 士控とにったこして 旧辛の理控乾供もが白 LL イキと 低労年でも 味とへいてしょかけにこう	教職員10	Α	100	43	57		
		授業力や生徒指導力の向上を目指して、研修や自己研鑚に努めている。	◇学びの環境を整える児童の育成に努めようと教職員が意識し、指導・支援を行ったことで、児童の環境整備力が向上してきた。低学年でも、膝をついてしっかりとふき 帰除ができる児童や、無駄なおしゃべりをせず、時間いっぱい掃除ができる児童が増えてきた。また、下校後の机の中や周辺などの整理整頓が習慣化してきつつある。							
	教職員の資質能		「掃除ができる児童や、無駄なあじゃくりをせず、時間いつはい掃除ができる児童が増えてさた。また、下校後の私の中や周辺などの霊理霊頓が首慎化してさりつめる。 ・ しかし、トイレのスリッパや靴、カバンの整頓については、まだ不十分な点が見受けられる。							
教職員の資質			◆トイレのスリッパや靴、カバンの整頓も含め、教室のロッカーや机の中、玄関の下駄箱の整頓もきちんとできるよう、全校体制で取り組んでいく。							
	力の向上	目標値:教職員の90%以上が肯定	職員の90%以上が肯定 A ◇食育推進事業や地域合同避難訓練、校区別人権・同和教育懇談会等、外部講師を活用した研修会で、より実践的な研修が行われたことがA評価につながったとすられる。 ◆校内研修の充実と合わせて、研修会、講演会に自主的に参加したり、読書に親しんだりしながら、各自のキャリアステージに応じた能力を身に付けるための自己研を行い、更なる授業力や生徒指導力の向上を図る。	₹ 教職員10	Α	100	29	71		
				集 見						
・能力の向			目指し、温かく、風通し R スプーム長月の一負として、互いに助け合い、多くの事業を美施してきた。多忙な中で、報告"連給"相談"確認かべ十分な点があつたことが、B評価につなかつたと考え	教職員11	В	88	25	63	12	
				<u> </u>						
上						<u>, </u>		<u>.</u>	<u>.</u>	
		`´ 目標値:教職員の90%以上が肯定	◇前期の反省を生かし、教職員が意識して、あいさつ、返事・報告・連絡・相談・確認に努めたことが、A評価につながったと思われる。しかし、まだ十分とはいえない。	教職員11	Α	100	43	57		
	目標値:教職員の90%以上が肯定		A ◆迅速な報告・連絡・相談・確認が、多くの適切な対応につながる意識をしっかりと持ち、風通しのよい組織力のある職場にし、更に信頼される学校を目指して取り組ん							
		でいく。								
	1									

学校運営協議会委員の所見と学校の対応

- 1 豊かな心を育てる教育の推進について
- (1)学校運営協議会委員の所見

異校種間等の交流も取り入れ、仲間意識を育てていってほしい。また、子どもだけの空間をつくらないようにし、トラブルがあれば、その機会を生かして、望ましい関わり方についてしっかりと学び合わせてほしい。あいさつについてはその意義を学び、目標を持って意欲的に取り組めるようにしていくとよいのではないか。また、公民館だよ りや回覧板を活用し、地域からも積極的なあいさつや声掛けができるようにしていきたい。 (2)学校の対応

どんな小さなことでも早期発見、早期解決をしてよりよい集団を持続させていく。あいさつについては、あいさつ集会を実施し、よりよいあいさつ、3月は返事について重点的に取り組み、更に「明るく丁寧なあいさつ・返事」ができるようにしていく。また、学校だよりで保護 者や地域の方からの積極的なあいさつや声掛けの協力依頼をする。

- 2 安全・安心な学校づくりの推進について
- (1)学校運営協議会委員の所見
- インターネットの利用について、児童と保護者が一緒に学ぶ場を設け、安全で、正しい使い方ができるようにしてはどうか。
- (2)学校の対応
 - 各学級の実態に応じて、安全で正しい使い方を指導していく。